

会 議 録 (概要)

会 議 の 名 称	佐渡市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成 31 年 (2019) 1 月 24 日 (木) 13:30 開会
場 所	佐渡森林組合 2階 大会議室
議 題	①「第 2 期子ども・子育て支援事業計画」ニーズ調査について ②平成 29 年度 事業評価について ③平成 31 年度 会議参加者の選任について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出 席 者	参加者 有識者・子育て中の親 12 人 事務局 佐渡市市民福祉部 子ども若者課 課長 市橋法子 課長補佐 藤井隆博 園児支援係長 本田寿之 子育て支援係長 余湖雅美 子育て企画係長 平岩繁美 社会福祉士 山寄笑奈 補助説明者 (株)オリス・日経マシナリー(株)共同企業体
会 議 資 料	就学前児童保護者用、小学生児童保護者用ニーズ調査票
傍 聴 人 の 数	0 人
備 考	

会議の概要 (発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>【第 2 期佐渡市子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査について】</p> <p>○第 2 期佐渡市子ども・子育て支援事業計画作成に必要な教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するため、「現在の利用状況」や「今後の利用希望」について小学生以下のお子様をお持ちの保護者に対しニーズ調査を行う。その調査内容の変更、修正、追加等についてご審議いただきたい。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(就学前児童保護者用)</p>
A 氏	<p>○問 32 の 1 番から 13 番までの項目の中で、8 番の児童館、学童保育 (児童クラブ) となっているが、問 26 では放課後児童クラブ (学童保育) となっているので、名称を統一した方が良い。</p>

事務局	○修正する。
B氏	○表紙について、調査のお願いの後に目的が書いてある。非常にわかりにくいので、もっと簡潔に目的を示すことができないか。また、「量の見込み」について国が示す教育・保育・子育て支援の度合いだと思うのだが、初めて聞いた言葉であり、大変わかりにくい。全体イメージとして、調査対象年齢を色分けしたらどうか。その方が分かりやすい。
事務局	○国から来た文書を表記している部分がある。ご指摘の量の見込みについては、必要量を見込みたいということなのだが、市民の方々に分かりやすい言葉、目的についても簡潔に示したい。
C氏	○放課後子ども教室について、例えば児童館であれば、ちのわの家（両津）、畑野児童館（畑野）と書いてある。放課後子ども教室は現在羽茂小、真野小、相川小の3校しかない。この地域以外の方は馴染みがないと思うので、地域を明記した方が親切ではないか。
事務局	○実施しているエリアを追記することは可能であるので併記し、わかりやすくする。
B氏	○時間の数字を入れる枠について、数字の記入例を明記してはどうか。また時間の書き方の例も別段にしてはどうか。その方が分かりやすい。
事務局	○見やすく体裁を整えるというご提案であるので、参加者からの異論がなければ変更したい。
D氏	○問2お子さんの生年月日の記入について。前頁に一番下のお子さんを書いてあるので問2も同じように記載した方がわかりやすい。
事務局	○追記する。
B氏	○問9の語尾を統一した方が良い。「父母・親族に見てもらえる。」と「友人・知人がいる」では語尾が違うので、「友人・知人に見てもらえる。」にした方が良い。
事務局	○回答する側に立つと、ご指摘のとおり語尾は合わせる必要があると思う。例えば、「日常的に見てもらえる祖父母等の親族がいる。」という場合、「いる」を最後に置くことで、見てくれる方がいるという確認をしたい。問9は「いる」が語尾で問題ないか。

B氏	○「もらえる」「見てもらえる」でも良い。
事務局	○子ども若者課としては、「見てもらえる」「そういう人がいる」を確認したかったので、どちらの表記でもよいか。「見てもらえる人がいる」「そういう人に見てもらえる」
B氏	○子ども若者課で聞きたい方はどちらなのか。「見てもらえる」が知りたいのか、「いる」が知りたいのか。
事務局	○問9-1では、見てもらっている状況を聞いているので、ここはそういう人がいる、その方に見てもらっている状況はどうか。この設問は、いるかないかではなく、どんな状況であるかということ。
補助説明員	○「いる」よりも「もらえる」で統一した方がわかりやすいかもしれない。
E氏	○設問で「いますか」と聞いているので、「います」「いません」で合わせた方が答える側はわかりやすい。
事務局	○わかりやすく聞きやすい方が良い。
E氏	○設問の言い回しは国で決めているのか。
補助説明員	○この設問関係は国の聞き方を参考にしている。
A氏	○表現を変えると良くないか。
補助説明員	○実情を把握している市が回答しやすい表現をする分には問題ない。
事務局	○「いる」か「いない」かで統一する。
B氏	○問10の番号がずれている。
事務局	○修正する。
B氏	○産休・育休・介護は入れなくてはいけないうか。休業中ではだめなのか。
事務局	○国の聞き方が産休・育休・介護であるため、この表記とする。
E氏	○へき地保育園の水津と海府はどこに丸をつけてよいのかわから

	ない。
事務局	○枠内にへき地保育園を入れる。
B氏	○この調査の目的について質問させていただきたい。幼稚園等の希望が少なかったら幼稚園は閉園するという考えがあつての質問か。
事務局	○利用が少ないから幼稚園を閉園するということではない。全体の見込み量、必要な量を確認するために調査を行う。
E氏	○実施している事業を「知らない」「知っているけど利用しない」という人もいるわけだが、利用しない方について、市は今回なぜ利用しないのかということ把握しなくても良いのか。 量的調査であればこれでよいのだが、もしニーズを知りたいということであれば最後に自由記載欄を設けても良いのではないか。
事務局	○来年度の佐渡市将来ビジョン策定に向けて、ご指摘の項目が必要かどうか確認させていただく。
E氏	○設問が増えると回答する方も大変だと思うが、今後検討していただきたい。
B氏	○問 25 の「困難度」という表現がわかりにくい。
事務局	○言葉について選定する。
A氏	○私は、放課後児童クラブを子どもの社会性を伸ばすことに使いたいと思っている。問 26 の何日使いたいとか、保護者が就労していなければならないとか、料金がかかるとかの説明があることにより記載することに抵抗が出てくるのでは。見直していただきたい。
事務局	○この設問は、4月以降に入学する方に質問をしており、現在利用している方は放課後児童クラブを利用すると料金がかかるということは承知していると思う。料金がかかるということを知らずに申し込みをされてはいけないので注意書きを入れた。料金部分については事務局で検討させていただきたい。
C氏	○問 26. 27 の「放課後子ども教室を週何回くらい利用したいですか」の質問について、現状は月 1 回であるので、週何回の設問は現実に合っていない。
説明補助員	○回答は小数点で返ってくることが多い。回答欄に例えば週 1 回未

	<p>満という項目を作ると、そのデータは市として使えないデータとなってしまう。確かに実情と合っていないので検討させていただく。</p>
F氏	<p>○あくまでも希望なので、たくさん要望があったら5年後には開設するようになるのか。</p>
説明補助員	<p>○開設に向けて、そこが必要なんだということになると思う。</p>
F氏	<p>○希望の量を知りたいのであればこのままでよいのでは。</p>
説明補助員	<p>○今回の調査のベースとなっている「量」について質問があったが、現状と利用規模のギャップはデータ上で見えてくる。利用状況が高いのか低いのか。今後の計画については人口推計と掛け合わせて、例えば希望が大きいから、今の量は5人必要である。今後5人が10人となり、10人希望するとなった場合、単純に倍になっている。では、5年後となった時、人口と掛け合わせて行く。人口推計で佐渡市は合計特殊出生率は下がっていない。むしろ少し上がっている。しかし、実際の数字を見ると下がってきている。そうすると希望が高くても、その人口に対して5年後、4年後、3年後の人口の伸びに合わせて求めている理屈になるので利用希望率が重要となる。しかし、市として大切なことは利用するかどうかの見極めをしなければならぬ。料金がかかるということを示したことにより利用しないということイメージすることも重要である。単純に週利用希望と月希望を聞くことができればよいのだが、見方が違うので検討させていただきたい。</p>
事務局	<p>○放課後子ども教室は月単位でやっているのが現状なので量の見込みとしてほしい数字ではない。例えば併記が良いのかどうか。質問に答える側からするとわかりにくい。</p>
補助説明員	<p>○併記になると、月と週で考える方がいる。月1回を小数点で答えられるとそのデータを無駄にはできないので、週1回未満のデータを作ってグラフにする。しかし、1回未満だと市として使えないデータとなってしまう。ただし、現状とかけ離れているが、これは集計上のことであるので。</p>
F氏	<p>○子どもが一人目ならば、放課後子ども教室はどこでもやっていると思う。しかもお金が要らなくなれば週2回、3回を希望する可能性もある。ニーズ調査だから良いのだが、事前に子ども教室等の内容を示したほうが良い。塾に行かせるよりもこちらのほうが良いと利用希望を書く可能性がある。</p>
C氏	<p>○ベビーシッターや宿泊を伴う一時預かり事業も佐渡市には無い</p>

	<p>制度である。要望が反映できない数字はゼロで出てきて、佐渡市にはない事業だからゼロであるという説明はつくのか。</p>
事務局	<p>○利用したことがなければ当然ゼロとなる。</p>
G氏	<p>○ニーズという意味では、ない事業はゼロでしかない。今度は、指針という形で持っていくのか、あるいはゼロのままないのでやらないとなるのか。</p>
事務局	<p>○事業の見込みとしては宿泊施設はないのでゼロである。また一方、本当に必要なのかどうかは独自の事業評価を行う。宿泊を伴う子どもの施設が必要である、例えば、新星学園で障がいのある子ども以外に、子育ての支援としてあったほうがよいのではないかな、またファミサポに宿泊があったほうがよいのではないかな等、併記することで見えてくるのではと考える。</p>
G氏	<p>○国はそこにニーズや利用があるかどうかの数字がほしいだけである。しかし、佐渡という条件の中で独自にやるには独自項目で質問させていただく形となる。</p> <p>○そうなると少子化が益々進んでくる。島外から人を呼び込むことが必要となり、外国人も増えてくる。なので宿泊やベビーシッター等の託児のことを考えていかななくてはいけない。せっかくのアンケート調査の中に反映されない部分が出るのはもったいない。しかし、少子化という意味で別の面があぶりだされてくるのか。</p>
事務局	<p>○小学校就学前児童保護者用の調査票はボリュームがある。聞かなければならないことがたくさんあり、国の必須質問項目と佐渡市が必要な項目を調整している。本土の自治体と佐渡市では条件が違うので、来年度の企画課の将来ビジョンアンケート等に併せて盛り込んでいく予定である。この計画はあくまでも見込み量であるが、独自項目を入れられるところは入れていきたい。答えていただく項目が多すぎて、独自項目を入れたかったのだが、回答者の負担も考慮した結果この内容となっている。</p>
H氏	<p>○このアンケートは小学校に在学している児童の家庭が対象か。特別支援学校の小学校の保護者も対象となるのか。</p>
事務局	<p>○対象となる。</p>
H氏	<p>○そうであれば、特別支援学校の子どもたちの多くは、早い下校の時に福祉事業所のえがおを利用している。どこに属するか。</p>
事務局	<p>○放課後ディサービスが児童クラブのカテゴリーに属しているの</p>

	で放課後ディサービスを追加する。
B氏	○問 30 で「父母のいずれかもしくは双方の育児休業を取得しましたか」とあるが、育児休業だけではだめなのか。父母もしくは双方という文言が必要なのか。
事務局	○現在は父母とも育児休暇が取得できる。育児休暇を片方だけ取ったのか両親とも取ったのかの集計が必要である。
C氏	○放課後ディサービスの希望について、これから入学されるお子さんが将来どうしたいかというのであれば問 26 にも放課後ディサービスを入れるべきである。
E氏	○「妊娠出産のときに必要な情報を得ることができましたか」の問で仕事と両立していなくても、仕事をしていなくても妊娠に関する情報を得られたかという問いなので、「その他全ての人に伺います」「全般について伺います」と入れたほうが良いのでは。
B氏	○調査票の最後にも回答期限を入れたほうが良いのでは。 (小学校児童保護者用)
B氏	○これは国が要求している設問か。
説明補助員	○小学校の内容については、就学前を参考にしても良いという内容だけなので、縛りはない。しかし、放課後児童クラブの利用規模を出さなくてはならないため、小学校児童保護者にも放課後児童クラブについて質問している。
D氏	○病後児保育事業の利用について、私自身わかっていないのだが、病後の捉え方が難しいと感じた。規定があったと思うが。
事務局	○国では病児保育という括りであるが、佐渡市ではまだできていないので病後児となる。小児科の先生が判断し、病後児が利用できるという診断書と意見書をいただいてからの利用となる。病後児保育事業開設時に保護者に周知しているので、病後児という言葉は理解していただいていると思う。
D氏	○知っているかということか。
事務局	○金井、両津と開設されているが、かなりエリアが限られているのが現状である。南部地区は使うことができない状況であり、病後児保育をやっているが、知らなかったので使えなかったということがないように周知と積極的利用をいただくために設問をした。

D氏	○病後児保育の具体的な機関と、どのようなときに利用できるのかわからないのではないかと。
事務局	○制度自体を知らないということか。 小学生も対象であるが、保育園に併設されているため保育園児しか利用できないと思われる保護者もいることからこのような設問となっている。
A氏	○小学生利用実績はゼロか。
事務局	○小学生の利用は無い。小学校6年生まで利用できるということを金井病後児保育を開始する時に小学校、保育園に文書でお知らせをした。また、両津を開始する時も全世帯に周知した。年度ごとの登録となるので、年度当初に各学校を通じて全世帯に周知を図った。
D氏	○病後児保育というものがどういうものかわかればよい。
説明補助員	○設問の後に病後児保育の概要説明を入れる。
議長	○エリアは決まっているのか。
事務局	○決まっていない。
議長	○赤泊の方が両津へ行って利用することも可能か。
事務局	○可能である。勤務先が両津であるので両津の病後児を利用しているケースもある。エリアを限定しているわけではない。
C氏	○「お子さんの放課後の過ごし方」について、放課後子ども教室を入れてほしい。
事務局	○追加する。
B氏	○問20で家庭の収入を聞いているが、必要なのか。
事務局	○これについては、国や県で行っている貧困対策を県でも貧困大綱を作成し取組を進めているところである。ただ、佐渡市については、今まで貧困対策について国から通知があっても調査できなかったこともあり、収入面についてどのような聞き方をするのか事務局でも迷ったところである。何に費用負担をし、保護者の経済負担軽減と言いながら、どのような政策が必要なのかわからなかったり、どのような収入を得て、どのような形態なのかということ

	ともわからないままでいた。なので、今回設問を入れた。皆様のご意見をお伺いしたい。また、収入の項目で「わからない」や「答えたくない」方のために、「わからない」を入れた。
B氏	○私は、不快だなと思う。設問の意図からすると回答は学校提出ではなく、家庭から直接郵送の方が良いのではないかと。
F氏	○私も設問について疑問に思ったが、今の説明であれば納得できる。設問の意図を説明すれば理解してくれると思う。
事務局	○タイトルに設問の意図、目的を追記するということでしょうか。また回答については、就学前児童保護者と小学校保護者は調査票封筒の封をして保育園及び小学校に提出。就園前の保護者には返信用封筒を入れて郵送する。
G氏	○経済的状況について細かく聞いているが、自分の貧困度を聞かれているようで答えづらいのではないかと。
事務局	○昨年、国の施策の流れを見ながら、ひとり親家庭の現況届けの際に、このようなことに困っているというところにチェックをつけてもらったのだが、この回答を受け、市民全体の貧困、佐渡市としての貧困対策と言うものを一定のところで考える必要があるのではないかと設問に入れた。
G氏	○その部分を入れてほしい。
事務局	○承知した。今回の意見を参考に事務局で検討させていただく。
議長	○調査内容について、あえて多数決は取らず、事務局を信頼して任せると言う形をとっても良いかと。
参加者	○良い。
	【平成 29 年度事業評価について】
事務局	○平成 29 年度の佐渡市子ども・子育て支援事業評価票をお送りするので確認願いたい。
G氏	○来年度の子育て支援会議の開催予定は？昨年度も 1 回、今年度も 1 回の開催で、評価についてもただ見るだけではもったいない。
事務局	○来年度の子育て支援会議は 2 回予定してる。その他にニーズ調査を受けての事業計画策定会議を 2 回予定している。ご指摘のとおり、事業評価の内容について検討し、次の施策に生かすべきと考えている。ご協力いただきたい。

事務局	<p>○補足として。会議に参加いただく皆様方の任期は概ね2年となっているのだが、今回ニーズ調査について皆様方から十分ご審議いただきながらご意見をいただいたので、事務局としては来年度も継続して参加していただきたい。来年度はニーズ調査の結果を踏まえ、計画作成に入るのでは是非皆様方からご協力いただきたい。支援事業計画については、継続の予算をいただいているので新年度に入りニーズ調査の結果報告も含め、会議の時期をお示ししてご参集いただきたい。</p> <p>また、現在15名の参加者に前々回まで参加願っていた市P連の方1名を加え、16名体制で運営させていただきたい。</p>
参加者	<p>○了解。</p> <p>【閉会】</p>